

## 会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3-08	平成25年度第4回すみだ環境共創区民会議		
開催日時	平成25年7月18日(木) 18時30分から20時05分まで			
開催場所	墨田区役所3階 31会議室			
出席者数	<p>【委員17人】          阿久沢委員 池田委員 伊藤委員 笠貫委員 久保田委員 小木曾会長          佐野委員 島崎委員 清水副会長 鈴木委員 永岡副会長 野島委員          本間委員 松本委員 森下委員 柳委員 横井委員</p> <p>【事務局3人】 環境保全課長、環境管理担当主査及び職員</p>			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	0名	
議題	1 すみだ環境の共創プラン基本目標2・4について 2 その他			
会議概要	<p>1 すみだ環境の共創プラン基本目標2・4について(事務局から説明)          すみだ環境の共創プラン&lt;改定版&gt;に基づき、基本目標2及び4について説明した。          (主な説明内容)          【基本目標2】地域全体で取り組む低炭素社会の構築に向けたまちづくり          【個別目標2-1】再生可能エネルギーの導入を促進する          【個別目標2-2】区民・事業者の取り組みを支援する          【個別目標2-3】地域環境の整備を推進する          【個別目標2-4】ごみを減らして温室効果ガスを削減する          【基本目標4】限りある資源を大切に作る循環型のまちづくり          【個別目標4-1】ごみの発生と排出量を減らす          【個別目標4-2】不法投棄やポイ捨てのないまちをつくる          【個別目標4-3】雨水利用を推進する</p> <p>施策の方向について、普及・啓発、導入支援、区における導入の推進等を説明した。</p> <p>2. 意見交換等における主な意見          建築関係では、平成27年度から断熱施工の規制が厳しくなるということで、低炭素住宅については、重要な問題と捉えている。輸入材の利用により、日本の木材が余っている。低炭素社会の構築のため、木造住宅を普及し、優れた低炭素住宅を目指している。          基本目標2と4は、我々が生活して、生きていくうえで関連する部分がある。また、基本目標3は、自然環境・自然現象に関わる部分であり、基本目標5は、1から4までを受けて関連することなので、3と5をまとめた。基本目標2と4では、我々が生きていくうえで何をしたらよいのかを考えることだと思う。</p>			

地球温暖化防止に向けた個別事業を提案するにあたり、効果が見える化することが、普及に効果があると思う。また、区民の方にとって分かりやすいと思う。効果をCO<sub>2</sub>に換算して、どのくらいCO<sub>2</sub>を削減できたかがわかると良い。たとえば、個別目標4-3にある雨水タンク等を導入すると、水をどのくらい節水できて、どのくらいCO<sub>2</sub>を削減できたのかがわかると良い。最近、墨田区でも雨水タンク等の設置が伸び悩んでいると聞いている。条例等で雨水利用の促進を図るほか、自主的な設置を促進するため、経済的メリットをPRする必要がある。

墨田区では、個人の敷地が狭いのでタンクを埋めることが非常に難しい。道路や公共スペースを活用した方が良い。

14・5年前に自宅を建てる時、省エネ対策、防災対策等を検討したが、コストの面がネックになって、すべては実現できなかった。雨水タンクは設置した。

公園のトイレ等、区の施設は雨水利用をしているのか。4年前、環境に配慮した会社として、エコアクション21に申請した。そのため、電気量やごみの量等がホームページに公開されている。そこで削減のため繰り返し努力を続けている。見える化や経済的メリットが非常に大事だと思う。

区役所庁舎のほか、一部施設で雨水利用をしている。

雨水をタンクに溜めて、そのままトイレに使えるのか。

肌に直接触れるウォシュレットには使えない。

トイレに使おうとすると消毒やポンプアップ等の経費が掛かる。タンクに補助金はあっても、その他の部分には補助金がない。夏場、植木の散水には多量の水を使うので、直ぐに空になってしまう。タンクを設置するメリットが感じられない。雨水タンクの普及のためには、ビルの建設等の際、条例等で義務づけるしか方法はない。

ビルごと雨水利用を導入することには賛成です。雨水利用をちまちまやっても経済効果はない。しかし、雨水利用には、流出抑制という効果もある。

地方では雨水を地中に溜めて浸透させているが、東京では道路がアスファルトで舗装されているため浸透しない。浸透性の路面にするには、行政の力が大きい。

墨田区の雨水利用のスタートは、都市型洪水対策だった。経済性メリットの話がでていたが、今、雨水利用で自分達に何ができるかを考えていかなければいけない。

雨水タンクは都市型洪水対策として、ある程度は空にしておく必要がある。

ごみを燃やすにもエネルギーを使う。ごみが濡れていると、より多くのエネルギーを必要とするので、区民の方にできることは、生ごみは絞ったり、濡らさないようにして、エネルギーの削減に繋げていくことだと思う。

区で発生する生ごみの量はどのくらいあるのか。

24年度の燃やすごみは約52,000tで、約4割が生ごみ。

水を絞って生ごみを出すことは大切なことだと思う。区のお知らせの隅っこにでも、PRしていけば効果が出ると思う。

お茶がらを絞るだけでも効果はあるが、家庭系のごみより飲食店等の事業系のごみの方が、水切り効果は大きい。

燃やすごみの3割から4割が生ごみ。生ごみの7・8割が水分。水分を減らすと、ごみを運搬するエネルギーや経費、ごみを燃やす時間が短くできる。家庭での水切りが進まない

理由として、流しの三角コーナーに3日も生ごみを置いておけば、生ごみは乾いてしまう。しかし、墨田区の住環境として合わない。

冷蔵庫等に貼るシール等で水切りをPRしてはどうか。

節電でこまめにコンセントを抜くのと同じように、生活習慣として水切りをする必要がある。

流し台にあるごみ受けの方が水切りは悪く、三角コーナーの方がまだと思う。

プランの概要版にある区民・事業者のエコアクション基本目標2と4に、これまで話された項目を追加することが、この区民会議の後半の作業になるのではないかと思う。

生ごみ自体を減らすエコクッキング等の取り組みも必要だと思う。私は生ごみの堆肥化を行って、プランター等で使っている。江東区では、家庭で堆肥化された堆肥を引き取り、公園等に利用する仕組みづくりも行っている。

生ごみを資源として捉えるか、燃やすごみとして捉えるかだと思う。墨田区は燃やすごみとしている。ごみを出さないようにする、発生抑制が大事なことだと思う。

行政の方針が大事だと思う。生ごみの堆肥化を行ったことがあるが、難しかった。行政は覚悟を持って方針を示してもらいたい。

一般の家庭では、水切りをして生ごみを出すという意識はないと思う。ごみの減量と併せて、水切りをもっとPRした方が良い。PRが足りない。

墨田区のお知らせは新聞と一緒に配布しているが、現在新聞をとらない若者が多い。駅に置いてあるお知らせを見る人は少ない。若い人にお知らせを見てもらう方法はないのか。

墨田区のお知らせは全戸に配布されるが、見ようとしないと目にしない。イベント等にも来てくれない。広報は口コミが一番だと思う。

ごみを減らすことも大事だし、出たごみを再処理することも大事だと思う。技術的に解決できるものは、企業等と協力することも一つの考えだと思う。最後はPRだと思うので、スーパーに協力してもらいPRすることも一つの案だと思う。東日本大震災後、エネルギーに関心のある人は確かに増えたと思う。

天水尊は節水等に関して役立つことより、エコアクションの象徴として、広報に勝る力がある。そこで、ものづくりの墨田区として、生ごみの削減・水切りの象徴となる物を作り、各家庭に配付してはどうか。啓発に繋がると思う。

隅田公園にある花畑では、夏場、2時間ぐらい散水をしている。いつも、もったいないと感じている。何故、雨水タンクを設置しないのか。タンクの良いPRになる。

基本目標2と4について、いろいろと意見が出された。今後、区民会議としてどの項目に絞って検討していくのかを決めた方が良い。

9月の定例会では、後半の進め方について話を行う。その中で決めていく。

### 3. その他、情報提供等

#### (1) すみだまつり(環境フェア)の参加について

10月12日(土)13日(日)

参加について、委員の方の意見をお願いします。

すみだまつりは、元々「すみだ環境まつり」という名前で始まった。昨年参加したので、今年も参加した方が良い。

	<p>沢山の方が集まるので、参加した方が良い。今出された区民会議の考えをお知らせするいい機会だと思う。</p> <p>参加に向けた内容検討のため、実施委員会を開催する。出席できる委員の方は参加をお願いします。事務局から開催通知を送付する。</p> <p>(2)第 18 回東京 23 区とことん討論会( 委員)</p> <p>(3)すみだいっしょに打ち水大作戦について( 委員)</p> <p>エコンチェルトで、8 月 3 日御谷湯で打ち水大作戦を実施。</p>
所 管 課	区民活動推進部 環境担当 環境保全課 環境管理担当 内線 5463